

B—108 短期大学における被服構成所要時間調査 (和裁について)

四天王寺女短大 大川原千鶴
○山科 圭子

1. 近年実生活における和服着用年齢が高齢層に移行してきているが短期大学被服科卒業生がどの程度技術を身につけていることが要求されるか、または理想的であるかは問題とされるところである。そこで各短期大学被服科の和裁に費される時間を調査して考察の一端とした。

2. 調査用紙を作製して短期大学に依頼し回収したものを資料として検討した。

3. 本調査の依頼校183校、回収45校、回収率25%で調査資料としては理想的な資料ではないがえられたものについて検討したので報告する。

1回生で和裁を修得させず2回生についてのみ履修せしめるもの3校、逆に1回生のみで修得せしめ2回生では除いたもの5校あり他は1・2回生の全学年を通じて修得せしめている。これら1年間の修得校を除き通年2カ年間ににおける和裁の時間数としては最高242時間55分であり、最低90時間であった。そのうち和裁縫製のための説明に要した時間数と実実習時間数との関係はその内容上から正確に区別しにくく回答は希望通りにえられなかったものもあったが通年2カ年間ににおける説明時間は最高105時間で51.2%を費して実習しないものについても説明だけはしている。最低は11時間15分で10.9%を説明に費していた。